

地域情報（県別）

【愛知】「医療者と患者をつなぎたい」日本初ホスピタルラジオが開局-辻祐介・藤田医科大学病院事務部主任らに聞く◆Vol.1

2020年2月21日（金）配信 m3.com地域版

医療者と患者をもっとつないでいきたい。病院が自主的に運営するホスピタルラジオ「フジタイム」が2019年12月、藤田医科大学病院に開局した。発祥国のイギリスでは200以上の病院で行われているというが、日本の医療機関では初となるユニークな取り組みだ。同院はなぜ、どんな経緯でホスピタルラジオを開局したのか。開局に携わった同院事務部主任の辻祐介氏と看護部看護科長の鈴木朝子氏に聞いた。（2020年1月21日インタビュー、計2回連載の1回目）

[▼第2回はこちら](#)

——そもそも、「ホスピタルラジオ」とはどんなものなのでしょうか。

辻 ホスピタルラジオは文字通り、病院が自主的に運営するラジオを意味します。1926年にイギリスの病院で始まったと言われていて、同国では現在、200以上もの病院で実施されているそうです。医療者と患者さん、あるいは患者さん同士をつなぐコミュニケーションツールとして活用されていると聞きます。こうした話は、メディア論が専門でホスピタルラジオにも詳しい名古屋大学の小川明子准教授に教えてもらいました。

厚生労働省やJASRAC、日本レコード協会に問い合わせたところ、日本での事例は聞いたことがないようで、おそらく国内では初めての取り組みだと思われます。医師が医療などについて解説している音源をインターネット上にあげているケースはあるようですが、MCを置いて番組を進行させていく形式はないのではないのでしょうか。



辻祐介主任（右）と鈴木朝子科長

——そうした日本初の取り組みはどんな経緯で始まったのですか？

辻 もとは湯澤由紀夫院長の発案です。当院の外部監査委員である中部日本放送（CBC）の方がホスピタルラジオのことを知っていて、その内容を湯澤院長に話したところ、「それはいい！うちでもやろう」と閃いたと聞きます。これが1年ほど前のことで、その後、事務部に湯澤院長から話があり、私たちが具体化を検討・実現に至った流れです。

当初は、「ホスピタルラジオをやる」といってもそもそもそれがどんなものか分からない状況で、病院全体を巻き込めないといけないことでもありましたから、まずはホスピタルラジオの理解を深めつつ院内の各部署に周知する必要がありました。それで、先ほど話した小川准教授を招いてホスピタルラジオについて解説していただき、各部署から代表者を1、2人ずつ出してもらって昨年8月から月に1、2回のペースでワーキンググループを開き、12月18日に「フジタイム」を開局しました。

——動き出しから4カ月で開局とは速い。言葉は悪いかもかもしれませんが、素人の方々がそんなにスムーズにできるものなのでしょうか。

辻 ラジオ放送技術の導入や番組作りに関する具体的なノウハウについてはCBCのサポートを受け、適時、アドバイスをいただきました。CBCはもともと、1951年に誕生した日本初の民間ラジオ放送局であり、現在はTBS系列のCBCテレビとCBCラジオを運営しています。

専門家の助力がなければ短期間での開局は実現できなかったかもしれません。それに、湯澤院長にはもともと、当院で毎年開催しているクリスマスコンサートの模様をラジオで放送したい考えがあったので、現場でも12月に間に合わせたい思いがありました。

——放送局が協力してくれたのは大きいですね。インターネットを利用するのはどんな流れで決まったのでしょうか。

辻 湯澤院長からは当初、床頭台を活用してはどうかと提案がありました。これは患者さんのベッドサイドにある、テレビなどが置かれている台で、イヤホンジャックも付いています。テレビのチャンネルと連動させて番組を流し、患者さんはイヤホンで聞く形にできないかという話だったのですが、できませんでした。業者の方に聞いたところ、当院にある床頭台のうち約7割がそういったシステムに対応していないようで、そうできる床頭台に変えとなると数千万円の費用がかかると分かったのです。

そこで、インターネットを活用する方針に切り替えました。当院ではWi-Fiの設備が整っていて患者さんも利用できる所以、コストを抑えられるだろうと。結果的にフジタイムの開局にかかった費用はサーバー代が約350万円、機器が約200万円の計550万円です。



収録時の様子を再現（場所は簡易スタジオの外来棟応接室）

——フジタイムの放送方法や聞き方、放送内容についてお聞かせください。

鈴木 フジタイムは事前に収録した音源をインターネットを介して定期的に放送していくもので、収録は外来棟6階の応接室で行っています。普段はスタッフの面談や来客対応などに使われていますが、ここを簡易スタジオにしています。

1回の放送時間は30分から60分ほどで、2週間に1度のペースで内容を更新していきます。2週間以内であれば患者さんは同じ内容の番組をいつでも聞くことができ、今のところ更新されたら過去のものは聞けません。初回を含め、現在（取材日の1月21日）までに3回放送しました。

番組は入院患者さんやそのご家族などを対象としたもので、QRコードを個人のスマートフォンまたは当院が貸し出す端末で読み取ることで聞けます。QRコードが掲載されたチラシを病棟の掲示板や患者さんが休憩できるラウンジに張っていて、今後は入院案内の冊子にも挟む予定です。

番組の内容としては、当院で行っている医療の最新情報や医師・院内イベントの紹介、短い物語の朗読などを放送していく予定です。

◆辻 祐介（つじ・ゆうすけ）氏

藤田医科大学病院事務部総務室総務課主任。

◆鈴木 朝子（すずき・あさこ）氏

藤田医科大学病院看護部看護科長。総合救命救急センター副センター長。

【取材・文・撮影 = 医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

